

国際ロータリー第2790地区 第8グループ

創立1957年3月23日



イマジン
ロータリー

銚子ロータリークラブ会報

第3201号 2023年2月15日(水)発行

例会場 銚子商工会館5階大会議室(銚子市三軒町19-4)

TEL0479-23-0750 FAX0479-25-8789

Email d2790@choshi-rotary.club HP <https://www.choshi-rotary.club>

◇第66代会長 高瀬幸雄 ◇副会長 佐藤直子 ◇幹事 淵岡彰介

本日のプログラム

「損害保険会社の仕事」 熊澤 直紀会員

前回例会報告(2月8日)

点 鐘: 高瀬幸雄会長

ロータリーソング: 我等の生業

ビジター紹介:

千葉科学大学ローターアクトクラブ

幹事 金城 旭様

次年度会長 高野 翔様

直前会長 木原 正稀様

会長挨拶

本日はお客様として千葉科学大学ローターアクトクラブから幹事金城旭様、次期会長高野翔様、直前会長の木原正稀様3名がお越しいただいています。

又、本日は東会員の卓話です。宜しくお申し上げます。東会員は今年年男です。都合で新年恒例の「年男の抱負」についてご挨拶を頂いていません。卓話の中でそのお話を聞ければ幸いです。2023年2月号の財団室NEWSで見つけました。

表紙にはRI会長エレクトのテーマ「世界に希望を生み出そう」が発表された記事、続いて環境が新たにロータリーの重点分野に加わり、4月が「環境月間」となり4月の「母子の健康月間」は7月になった記事の後、パキスタンとウクライナの支援向けの基金の創設を管理委員会が承認とありました。パキスタン洪水援助基金は別として、ウクライナ救援基金承認は国際ロータリーが政治問題に大きく踏み込んだこととなります。ロータリークラブの歴史に汚点を残すことがないことを祈りたいと思います。

今月は平和構築と紛争予防月間です。

平和の意味を調べますと、戦争や暴力で社会が乱

れていない状態とあります。

日本で戦争について語るときは、1945年(昭和20年)8月6日と9日に広島と長崎に原子爆弾が投下され、そして8月15日終戦を迎えました。その後世界で唯一の被爆国の国民として、世界に向けて戦争の恐ろしさ、平和の尊さを伝え続けていくことを誓いました。

その結果、平和の中にある戦争については私を含む多くの方々は、日本は平和な国であると認識していることに問題はないと思います。

しかし平和の定義のもう一つに暴力の項目があります。暴力とは他者の身体や財産などに対する物理的な破壊力を指す言葉のようです。最近日本ではドメスティック・バイオレンス(DV)の話が良く報道されています。

DVには六つの内容があり

1. 身体的暴力
2. 精神的・心理的暴力
3. 性的暴力
4. 経済的暴力
5. 社会的隔離
6. 子供を使った暴力

に分けられるようです。

日本は平和国家として歩むことを宣言し、今日に至っていますが、児童虐待、パワハラ、セクハラ、マタハラ、いじめ等多くの暴力の存在が顕在化してきています。世界に向けて日本は平和な国であると国民が胸を張り発言できる国かと問い直すとなかなか難しい状況にあるように思います。ロータリアン個人が持っている奉仕の心、そして他者に対する優しさや思いやりの心は平和を目指すうえで大変重要な要素であると考えます。このような心を大切にする人々が一人でも多くなることを願い会長挨拶とさせていただきます。

2022-23年度ジェニファーE. ジョーンズRI会長テーマ
IMAGINE ROTARY
イマジン ロータリー

2790地区 小倉純夫ガバナー(松戸RC)スローガン
ロータリーの仲間との信頼を繋ぎ、
千葉から世界を変えていこう!

製作◇広報・会報委員会 山本肇 五十嵐亘 大岩将道 須永清彦◇

2/8 臨時理事会報告

- 1) 親睦旅行参加アンケート実施の件…承認
- 2) 千葉科学大学 RAC 木原会員送別会 (有志) の件…承認

幹事報告

1. 平和構築と紛争予防月間リソースのご案内
2. 地区補助金申請書について
3. RYLA セミナー参加者の皆様へご案内
4. ガバナー月信 2月訂正のお詫びとお知らせ
5. パキスタン洪水救援基金のご協力をお願い
6. メルボルン国際大会ご案内と登録をお願い
7. 5/20(土)ロータリー全国囲碁大会案内状配布をお願い

…ガバナー事務所

8. ローターアクト地区行事のご案内
- …千葉科学大学ローターアクトクラブ
9. WTC お料理教室『ハーさんのベトナム料理』のご案内
10. 国際交流イベント「World Travel in Choshi ~Winter Special」のご案内

…銚子市国際交流協会

11. 2023-24 年度版ロータリー手帳お買い上げをお願い

…一般社団法人ロータリーの友事務所

【2月のロータリーレート】1ドル=130円

【お知らせ】

◎第5回クラブ協議会2/15予定しておりましたが、3/1(水)例会終了後に変更いたします。

会員の記念日

結婚記念日 泉 英伸会員(2月2日)

入会記念日 大里 忠弘会員(2月5日)

ニコニコBOX

◇高瀬 幸雄会長

東会員 卓話宜しくお願ひします。

卓 話

「考えない病」 東 祥三会員



今まで、最新の本が、もう6年前になりますが、千葉科学大学で教鞭を執ることになって書いた「考

えない病」であります。

そのきっかけになったのが、大学教授になって学生と接してみて、学生たちが自分自身の頭を使って、積極的に考えようとしなかったことだった。これは、私が教えている大学の学生だけなのかと思って、超有名大学で教鞭を執っている複数の知人に聞いたところ、「同感だ」と言われました。教育機関のみならず、ありとあらゆる組織、団体、企業、自治体、政府に所属する人々も同じようになっていると想像できます。

背景には、現代的には、スマホを使って、ヤフー、グーグルで検索すれば、知りたいことは、即座に手に入る。ユーチューブを見れば、専門家といわれる人が、わかりやすく教えてくれる。ということがあるかもしれない。私は学生についてだけ述べているわけではありません。学生が考えなくなっているということは、その親の世代もそうなっている。つまり、日本人の大半が、自分の頭で考えなくなっているということだ。また、各種企業に働いている友人たちに聞いても、同じ答えが返ってきます。なぜなのか。その答えは、単純ではないと思う。私たちの世代では子供の時代から、大学生の時代まで、今日のように物はあふれていないし、遊ぶ時間はたくさんあったし、基本的に、何をやるにしても、自分たちで、道具を作ったり、遊びを考えたりする余裕な時間がたくさんあった。また、自分で考える以外、誰かが手伝ってくれるということもなかった。今日のように便利で、快適な環境も影響していることは否定できない。しかし、より本質的には戦後の日本の教育そのものにあると思える。

つまり、偏差値教育、記憶力重視の教育、選択肢の中から答えを導き出す択一問題につまり、「考える」という要素を除外している教育に、その根源がある、と私は見立てています。この点については、別の機会に論じてみたい。

“考える”ということはどういうことか。

「考えるってどういうことだろう」と聞くと、もちろん多くの人は答えられなくなっていると思います。皆さん、何事でも何でも構いませんが、例えば、「そこは考えて対処してください」といったとしてもいわれた人は、考えていないので、「この人何を言っているんだろう」と思うはずです。ここは、「古事記伝」の著者 本居宣長に教えてもらいましょう。

江戸時代の医師で国学者・文献学者の本居宣長は、「源氏物語」に滔々と溢れる「もののあわれ」という日本特有の情緒を重んじ、太古から日本人の中に脈々と受け継がれている自然情緒や精神を尊んでいた。

その本居宣長は、“考える”の語源は、“かむかふ”であると言っている。もともとは“むかへる”という語源であり、“かれとこれとをアヒムカへて(相向かいて)思いめぐらす”という意味です。わかっ

たような、わからないようなので、「20世紀の知的巨人」と言われた小林秀雄の助けを借りたい。彼は本居宣長の“考える”の意味を次のように言っている。「物に対する単に知的働きではなく、物と親身に交わることだ。物を外から知るのではなく、物を身に感じて生きる、そういう経験」であると。つまり、“考える”ということは、自分が当事者意識を持って対象としっかり交わらないといけないのだ。それを教え育むのが「教育」というものではないのか。

例えば、ヘンリー・キッシンジャーから教えてもらったこと。

問題は、今日、当事者意識などどこ吹く風で、対象と交わることもせず、つまり考えないで、物事を知ろうとしているところにある。ただ知りたい。そのために、すぐ答えを欲しがる。自分で答えを見つけようとしなない。そのためには時間がかかる。これを回避しようとする。簡単に答えを教えてもらっても、その瞬間は、理解しても、分かったというところまでいかない。すぐ忘れることでもある。知ってどうするのかという知識はたくさんある。そういう知識は身につかない。知りたいことと、交わっていないからだ。外から知ろうとしているだけで、身に感じていない。つまり、腑に落ちていない。そういう経験をしていない。

考えない病に罹ると、つまり、自分の頭で考えないと、他人の言説に右往左往することになる。

数学者で数学のノーベル賞といわれるフィールズ賞を受賞している広中平祐氏の書を通して、知ったことですが、あの発明王のトーマス・エジソンの研究所には、張り紙があってそこには、「人間には悪い性格がある。考えないで済む方法がないかと一生懸命考える」と書いてあったそうです。おもしろいですね。つまり、人間は、今、はじまったことではなく、昔から、“考える”ことがあまり得意でなく、常にズルしようとしていた、ということであり、今日では、それが、さらに、深刻化しているということかもしれません。

ご案内のように、エジソンは、小学校1年生か2年生の時、算数の時間に、先生から、1+1はいくつだという質問されて、大きな1と答え、その結果、先生に怒られ、その後、登校拒否をしたといわれる。彼は、いつも砂場で遊んでいて、砂の山を作っていた。彼の頭の中では、1つの砂山ともう1つの砂山を合わせれば、より大きな砂山が1つ作れると思った。だから、1+1は大きな1と答えたといわれます。この発想はすごい。つまり周囲、この場合先生の言葉であっても、自分が間違っているとは、思っていなかった。彼の頭で考えたことは、その後の数々の発明に結びついているに違いない。

後講釈であるが…。

翻って、今日の私たちは、物事に対して、特に、自分自身の利害に直接関わることは別として、ほとん

ど自分の頭で考えることなく、新聞、テレビ、雑誌、スマホのアプリ等を通じて知ることによって良しとしてしまっているのではないか。

私は、ニュース、朝ドラ、時代劇、アニマルプラネット以外、ほとんどテレビを見ないが、テレビ番組を見れば、クイズ番組の多いことに驚かされる。知っているか知らないかということによって競い合うゲームだ。これは、知性や教養とは似て非なるものだ。この番組を単なる娯楽・ゲームとしてそれ以上でも以下でもないと思っているならば、まったく問題視しない。

しかしそのクイズ問題に、たくさん答えられる人を、優秀な人、頭の良い人と捉えるならば、話は違う。それは、「物知り」というだけで、記憶力という能力がある人には間違いはないが、知性のある人と区別はされてきた。

私にとって、優秀な人、頭の良い人とは、直面する問題・課題に対して、解決策を見つけられる人だ。これを知性のある人、できる人という。

例えば、今年、令和5年ですが、平成という年号を創案した人、安岡正篤、もう故人、知行合一のお孫さん、陽明学の権威、安岡定子さんからかつて論語の講義を受けた。その時、定子先生に、おじい様から、いろいろ教わったと思いますが、どのように教えてもらったのですかという質問をした。その答えが、きわめて感動的。すぐ教えてくれないんですよ、という答え。どういうことかということ、・・・私も含め、今日お集りの人々の大半は、日々体験していることですが、解決しなければならない問題がたくさんあり、そのどれ1つを取り上げてみても、クイズ番組や学校や大学の授業のように答えがわかっている問題はない。答えがわかっているならば、それは問題ではないと思います。

問題を解決するためには、その問題が何であるか、その問題に面と向かい合わなければならない。まさに“考える”ことをしなければならなくなる。そして、情報を集め、分析し、解決する方法を模索しなければならない。何回も失敗を経験し、別の方法を見出していかななければならない。まさに、当事者意識を持って、事に当たらなければ、答えは見えてこない。物知りはたくさんいても、問題を解決することはできない。

あの山中博士、考える人です。それを実践してきている人です。

どれだけ失敗してきたか？自ら言われている通り、別の言葉で言えば、自分で考えるということは、身銭を払う、ということ、自分で考え、実行することに対して、代償を払う場合もあるし、その恩恵を受けることもある。当然、自分の言説に対して、自ら責任を負うということです。

他方、自分で考えないと、当然新しい発見はないし創造もない。したがって、その喜びを味わうこともできない。

自分で考えれば、それが的を得ているかどうか、自分で判断することができる。そして、行動に移すことができる。また、間違っている、それが1つの確実な情報になり、その間違いを繰り返すことなく、自分の血肉にすることができるであろう。しかし、物事を考える参照点、基準点、自分の物差しを持たないまま、他人の考えや言説をさも自分の考え、自分の主張のように展開すると同時に、他人の言説に左右されることになる。そして、失敗は、あるいは間違っている、それが間違っていることがわからず、その間違いを自分自身のものにするのができなくなる。その結果、自分の言説、言っていることに責任を持たず、おかしなことになって自分のせいではなく、他人のせいという無責任なことになる。何とこういう人が多いことか。こういう人々は、学び、考えることによって、創造することの愉しさ、喜びを味わうことができる、ということをおぼえてしまっているのではないか、と思わざるを得ない。言動に責任を持たない評論家やえせ知識人、ジャーナリスト、研究者、政治家、官僚、コンサルタントはますます増えている。そして、あらゆる領域に広がっている。それは、日本における考えない病が深刻化している指標として捉えることができるのではないか。

考えない病が増え、その領域が広まるとどうなるのか。

結論から言うと、私たちの生命、生活、生存に多大な影響を及ぼすことになる。

つまり、日本人が最も不得意とする、意思決定がますますできなくなるということである。

意思決定とは、熟慮、選択、決断であり、その前提に自分の頭で“考える”ことが必要条件であることは、理解していただけたらと思う。

委員会報告

宮内秀章クラブ研修・情報委員長



ロータリーの友2月号
読みどころ紹介

宮内龍雄会員増強委員長



毎月会員増強委員会を開催しています。皆様からの情報をよろしくお願い致します。

熊澤直紀親睦活動委員長



5月20日(土)親睦旅行について

【千葉科学大学RACからのお知らせ】

2月11日(土)地区ローターアクト主催
大大大運動会を開催します。是非ご参加下さい。



【出席報告】

会員総数 36名 出席計算 34名
出席 24名 欠席 10名
出席率 70.59%

欠席者：淵岡君・東川君・松本君・村田君
大里君・大岩君・佐藤君・吉原君
鈴木君・高橋宏明君

【M U】

2/11 地区RAC 大大大運動会 須永君

【ニコニコ】

ニコニコBOX	¥ 3,000	計	¥488,000
スモールコイン	¥ 4,600	計	¥ 31,303
米山BOX	¥ —	計	¥ 28,496
希望の風	¥ —	計	¥180,700

次週(2月22日)プログラム

「紛争と平和に思うこと」

19-20年度グローバル補助金奨学生

工藤 幸介様

お弁当：犬吠埼ホテル(幕の内)